

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

横見小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上を図るためのわかる授業づくり
～児童生徒の学びに向かう力を高める工夫～

学力向上推進員 細束義高	委員	校長:平島裕志	教頭:佐野恭子
		教務主任:尾川弘美	研修主任:森本由佳
		特別支援教育コーディネーター:杉本峯代	

校長

平島 裕志

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的・基本的な知識・技能の習得にまじめに取り組む児童が多いが、習得率にはばらつきがある。 ●長文や問題の意図を正確に読み取る力や語彙量が十分ではなく、習得した知識や技能を適切に学習に生かすことができていない。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、漢字や計算の問題で85～90%以上の正答ができる。 ・身に付けた知識や技能を適切に使って、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・朝活の時間を利用し、多様な語彙にふれ、語彙の習得を図る。 ・使う言葉を指示して文を書くなど、語彙を増やす機会を設定する。 ・漢字・計算・読み取りのドリル学習や毎日の音読などを継続して行う。 ・デジタル教科書を効果的に使い、わかる授業づくりを図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読や発表による表現には意欲的で、方法や手順がわかっている学習には、まじめに取り組んでいる。 ●自分の考えを筋道立てて説明したり、文章に書いたりして表現する力が十分とは言えない。	・根拠や理由、考えに至る過程を明確にしなが、筋道立てて自分の考えを表現し、伝え合うことができる。 ・様々な考えや意見を比較しながら、考えを深め、目的に合った表現方法を身に付けることができる。	・考える時間を十分に確保して、自分の考えを明確にできるよう、ワークシートやICT等を活用する。 ・自分の思いや考えを深めるために、スピーチやペア学習、グループでの話し合いなどで、他者の意見を取り入れる場面を増やす。 ・相手意識をもった表現ができるように、評価の場面や評価の視点を定める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○きまりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り、与えられた課題にまじめに取り組んでいる。宿題をする習慣がほぼ定着している。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。集中が続かず、話を十分に聞くことができない児童がいる。	・基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いた学習に取り組むことができる。 ・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習に取り組むことができる。 ・自主学習ノートを使い、自分で考えて予習や復習を進んですることができる。	・睡眠時間の確保やバランスのよい朝食の大切さ等について、児童や保護者に啓発する。 ・学習の準備や正しい姿勢を習慣化させる、持ち物をそろえる、時間を守る等の学習習慣の定着を図る。 ・よい自主学習ノートを例示し、定期的に評価することで、意欲の持続を目指す。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



